

ID No.	3026
研究課題名	老化に伴う腸上皮バリア機能障害の分子基盤の解明
研究代表者	朴 恩正 (三重大学・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	清野 宏 (東京大学医科学研究所・教授) 島岡 要 (三重大学・教授)
研究報告 <p>加齢による自然的な老化は腸管免疫機能異常を惹起させ腸管上皮のバリア機能まで低下するという仮説がショウジョウバエを用いた研究で判明されていたが、哺乳類モデルではまだ解明されていない。我々は老化に伴う腸管上皮細胞の遺伝子発現調節の分子機序を明らかにする目的の一環として、老化マウスモデルを用い小腸と大腸から回収した上皮細胞内のマイクロ RNA 発現パターンを包括的に分析した。その結果、有意な発現変化の示すマイクロ RNA 群が見つかり、その老化特異的な腸管上皮バイオマーカーとその標的分子との相互遺伝子調節ネットワークとともに、老化特異的バイオロジックパスウェイの分析等を遂行している。更に、同マウスモデルからの血液サンプル（血漿）のマイクロ RNA 発現パターンを解析し血中マイクロ RNA バイオマーカー候補群の同定も並行していく予定である。</p>	